

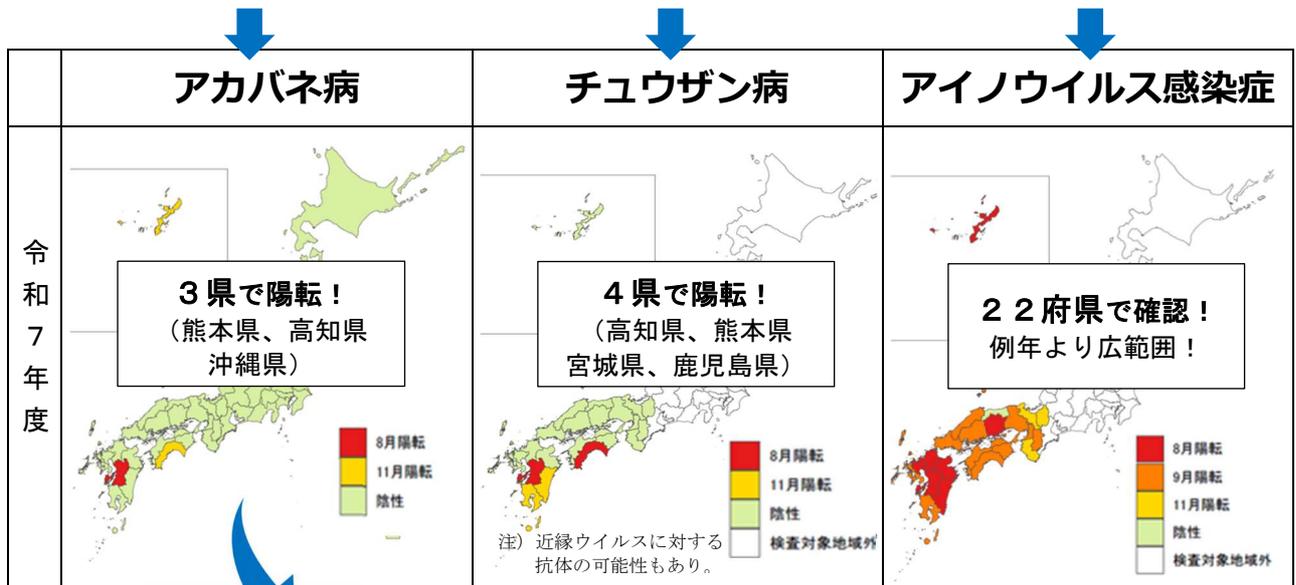
# かほだより

## 令和7年度 牛のアルボウイルス感染症サーベイランス結果

- 牛のアルボウイルス感染症は、ヌカカ等の吸血昆虫が媒介する感染症で、**異常産**（流死産、奇形、奇形に伴う難産等）を主徴とする**アカバネ病**、**チュウザン病**、**アイノウイルス感染症**などがあります。**治療法がなく、時に大規模な発生となり、経済的な損失が大きい疾病！**
- アルボウイルスは、常在している東アジア・東南アジア地域から、**季節風によって、ヌカカとともに国内に侵入**します。（近年の温暖化はヌカカの活動期間↑の可能性）
- 毎年全国で、吸血昆虫が活発になる6～11月にかけて、同じ牛を採血し、**ウイルスの侵入状況調査を実施**しています。以下の図は、今年度の**牛の抗体検査の結果**です。（陽転＝侵入した可能性）



写真提供：農研機構 動物衛生研究部門



長野県では、ご協力いただいた農場で**アカバネ病**の抗体検査を実施し、**県内へのウイルスの侵入は確認されませんでした・・・**



**ポイント** **年によって陽転時期や地域が異なる！**（今年度はアイノウイルスの動きが大きい）  
例) アカバネウイルスの陽転地域は九州以南が多いが、近隣地域でも確認！  
東北地方（2010年）、岐阜県含めた西日本全般（2019年）、北海道（2022年）

今年もウイルスは県内に侵入しないだろう・・・

楽観せずに、ウイルスの侵入に備えた対策が必要！

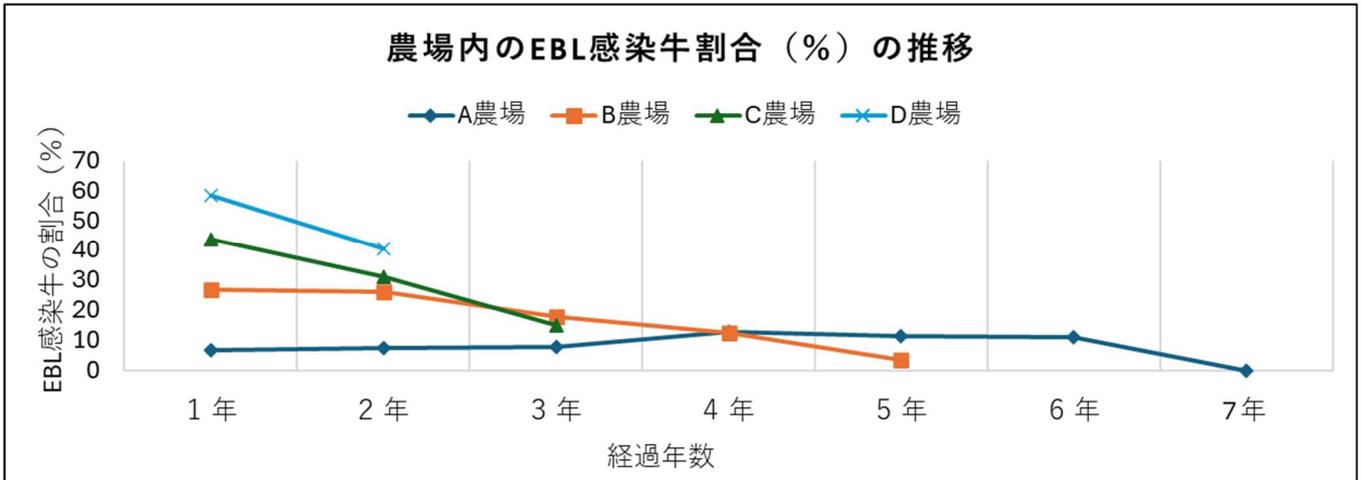
ヌカカが活動を始める前＝**春にアルボウイルス感染症予防ワクチン**を接種しましょう！

アカバネ病ワクチン接種に係る経費については、農水省からの補助支援があります。詳しくは、松本家保または中信家畜畜産物衛生指導協会までお問合せください。（連絡先：右上）

# 牛伝染性リンパ腫の対策事例

牛伝染性リンパ腫（EBL:旧牛白血病）はEBLウイルスの感染により引き起こされる病気です。この病気は血液のついた道具の使い回しや吸血昆虫により広がります。感染した牛の多くは症状を示しませんが、発症した場合はリンパ節が腫大する等、様々な症状が現れ、と畜場では全廃棄となります。経済的被害が大きいため、対策が必要です。

昨年に引き続き牛伝染性リンパ腫対策に積極的に取り組まれている農場の事例を紹介します。



## 共通の対策

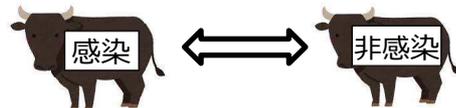
### 吸血昆虫対策

- ・成虫駆除剤の散布
- ・サシバ工捕獲装置の設置
- ・防虫ネットの設置
- ・畜舎周囲の環境整備



### 出来る限りの分離飼育

同一舎内でも感染牛は端に配置

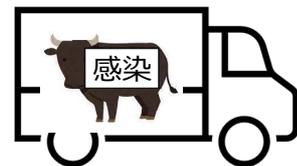


### 初乳対策

- ・感染母牛の初乳は子牛に与えない。
- ・冷凍初乳
- ・初乳製剤
- ・60℃30分加温した初乳を給与



### 感染牛の淘汰



上記に加え、感染率が著しく減少しているC農場ではこんな取組も！

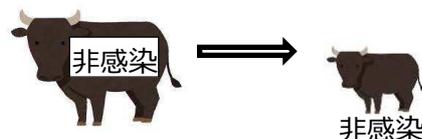
重要！

### 吸血昆虫発生源対策の強化

- ・堆肥の適切な管理
- ・こまめな糞の掻き出し



### 後継牛は非感染牛のみから生産



EBL 感染率が高い農場でも対策を実施すれば清浄化することが可能です。

検査や対策に興味のある方は**防疫課**までご相談ください。